

京都工芸繊維大学

〒606-8585 京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町

総務企画課広報係 TEL 075-724-7016

https://www.kit.ac.jp/

大学HP



京都工芸繊維大学

Kyoto Institute of Technology



伝統と革新性が交差する「京都思考」のもと デザインシンキングや異分野融合で 世界の最前線に挑む国際的工科系大学



よしもとまさひろ
吉本昌広学長

1988年京都大学大学院工学研究科博士
後期課程修了。専門は半導体工学。京都大
学講師、京都工芸繊維大学教授、同大理事・
副学長などを経て2024年4月より現職。

SUMMARY

1902年設立の京都高等工藝学校と1899年設立の京都蚕業講習所を源流とし、127年に及ぶ歴史を持つ国立大学法人 京都工芸繊維大学。京都ならではの洗練された「匠のものづくり」と、革新的な創造的挑戦心を「京都思考 (KYOTO Thinking)」と名付け、国際的工科系大学にふさわしい先端的な教育研究を展開しています。世界標準の工科系人材の育成を目指し、学部4年、修士2年、博士3年の計9年間を3年ごとの3段階で体系化した「3×3プログラム」をはじめ、充実の課題解決型授業 (PBL)、海外インターンシップ、デザインシンキングによる異分野融合の教育研究などを推進。産業界の第一線で活躍する「TECH LEADER」を数多く世界に送り出しています。

01 世界標準の工科系人材を 養成する国立大学

世界的な歴史文化都市・京都に位置し、最先端の教育・研究を展開する工科系国立大学である京都工芸繊維大学。同大学が掲げる理念が、「京都思考 (KYOTO Thinking)」だ。

「京都の文化は長い歴史の中で、技術・品質を備える匠のものづくりと信頼関係により培われてきた一方で、明治以降も島津製作所や村田製作所、京セラなど世界的企業も生まれています。伝統を大切にしながら革新的な挑戦を続け、新たな価値を創造してきた精神を私たちは『京都思考』と名付け、本学のミッションに掲げています」と、吉本昌広学長は語ります。

「学問分野も応用生物学域から物質・材料科学域、設計工学域、デザイン科学域、繊維学域、基盤教育学域まで幅広く、社会実装を見据えた人材育成を推進。なかでも特徴の一つが建築・デザイン分野で、デザインを通じて社会課題の解決にも取り組んでいます。また、創設以来の伝統を受け継ぐマテリアル研究では、ケミストリーから電子材料、機械材料、繊維材料まで分野横断的な研究を展開しています」（吉本学長）
研究面でも高い評価を獲得しています。機械工学系の高木知弘教授らによる「金属材料の組織予測に関する研究」と、同・山川勝史教授らによる「富岳シミュレーションによる飛沫感染理解と拡大防止への貢献」、さらに、電気電子工学系の西中浩之教授らによる「低環境負荷の次世代成膜技術ミストCVD法の研究」は「科学技術分野の文部科学大臣表彰」を受賞しました。「国家主導のムーブメント型研究開発事業」では、電気電子工学系の小林和淑教授が量子コンピュータ実用化の鍵を握る半導体回路設計

03 デザインシンキングによる 異分野融合を推進

ローバルインターンシップ、海外大学とのジョイント・ディグリー／ダブル・ディグリー・プログラムなどを整備しています。

さらに、「3×3プログラム」で生まれた時間的なゆとりを活用し、長期インターンシップや海外留学に挑戦することで、多様な課題に対応できる主体的な人材の育成を目指しています。

デザインと建築を柱とする領域横断型の教育研究拠点としては、NEXTO Design Lab (D-lab) があり、多彩な専門性が交差するインキュベーターとして活動しています。このように、先進的な教育改革の進む同大のキーワードの一つが「デザインシンキングによる異分野融合の教育研究」です。

デザイン学専攻 (博士前期課程) では、世界屈指の芸術系大学であるロンドン芸術大学 (UAL) とのダブル・ディグリー・プログラム (Global Collaborative Design Practice (GODP)) を実施しています。このプログラムでは、芸術系デザイン教育と工学系教育研究が融合した新しい実践的デザイン教育を行っています。すなわち、異なる文化的背景や観点を持つ仲間との交流や対話をおとして多様性を理解し、さまざまな専門分野との学際的な結びつきを志向しながら、コラボレーションという手法をとおして実践を重ねていく、アクチュアルなデザイン教育を展開しています。

また、実質的に修士3年間を確保したカリキュラムにより、異分野融合・産学連携による科目を多数提供しています。
「イノベーションの実現には異分野の技術者同士の相互理解を進めることが不可欠です。そのため、大学院で異なる分野の学生同士が一緒に

を推進。繊維学系の谷口育雄教授によるCO₂分離膜研究など、世界最先端の研究を担う教員が数多く活躍しています」と吉本学長。工学分野では教員と学生が協働して研究するため、教員の研究力が教育の充実につながり、世界標準の工科系人材の育成につながっています。

02 独自の「3×3プログラム」で TECH LEADERを育成

期的な視野に立つて学びに向かい、専門性を研ぎ澄ませていくために構築されたプログラムが「3×3 (スリー・バイ・スリー)」です。これは、「学士4年・修士2年・博士3年」の学年構造を「学士3年・修士3年・博士3年」に変質的に変更した独自の教育プログラムシステムで、学部から博士前期課程までの6年間を一体として捉え、その後の博士後期課程の3年間を見据えたカリキュラムとなっています。学部から大学院への進学率が70%を超えているからこそ実現した、シームレスな教育プログラムと言えるでしょう。

「本学では専門分野の知識・技能を基盤として、グローバルな現場でリーダーシップを発揮しプロジェクトを成功に導ける人材を『TECH LEADER』と定義し、専門力はもちろん、リーダーシップや外国語運用能力、個の確立の修得を目指しています」（吉本学長）

このうち、リーダーシップ教育では教養教育を刷新し、実践教養科目を充実。課題解決型学習 (PBL) を通じてリーダーシップを養成するワークショップ型科目も設置しています。

外国語運用能力の養成では、「英語鍛え上げプログラム」が文部科学省から好事例として紹介されました。交換留学制度では70校以上の海外大学から留学先を選択できるほか、海外の研究機関や企業で実践的な研究活動に従事するグ

に学べる専攻共通科目があります。その中には、大学で学んだスキルの価値を分かりやすく伝えるために、企業で活躍する講師とブレインセンター能力を身につける実践的な授業や、電子機械、化学、繊維など多分野にわたって広く先端材料科学について学ぶ授業などがあります」（吉本学長）。

04 高い就職実績と 広がる活躍の舞台

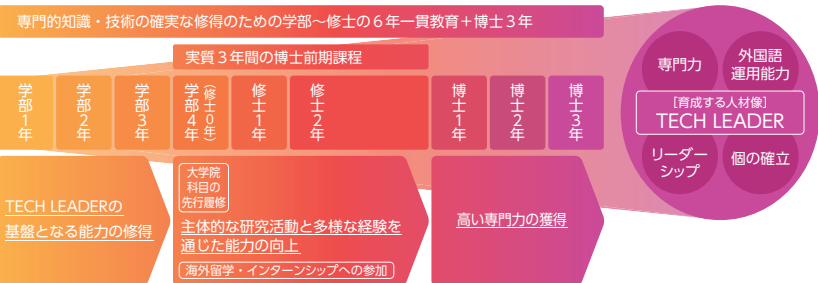
業界における同大学卒業生の評価は高く、就職希望者の95%以上が製造業をはじめ建設、情報通信など幅広い分野で活躍しています。博士後期課程修了者も、国内外の研究機関や企業で活躍しています。

一方で、「京都思考」の精神を受け継ぎ、自ら起業の世界に挑む学生もいます。日本を代表するIT企業の一つ、SKY株式会社の創業者・大浦淳司代表取締役会長は同大学の卒業生で、同社は学内施設「ブラザークー」と「K101講義室」のネーミングライツを取得し、キャンパスにその名を残しています。

教員同士のコミュニケーションも盛んで、専門領域の垣根を越えて議論を重ねる「NEXTO AGORA (アトリア広場)」では、多様な知見を融合し、一人では成し得ないイノベーションの創出と社会実装を目指しています。

「本学は研究室も相互に開かれ、学生たちも学内でさまざまな活動に取り組んでいます。いろいろなことを探究したり、ものづくりに打ち込むことが好きな人、ぜひ、京都というこの素晴らしい地で最高の仲間と出会い、新しい価値の創造に共に挑みましょう」と吉本学長は皆さんに呼び掛けています。

PICK UP 理工系分野の世界標準を踏まえた工学系人材育成カリキュラム「3×3」



学生フォーミュラやロボコンなどに教員と協力して挑戦

主としてものづくり教育を目的に、学外でのイベントや出展に向け学生と教員が協力するプロジェクトも盛んで、学生フォーミュラ日本大会では「Grandelfino」が大会最多となる7度の総合優勝を果たしており、2026年度はICV部門において総合2位、EV部門において初出場総合4位という結果を残しています。ROBOCON 挑戦プロジェクトチーム「ForteFibre」もNHK学生ロボコンの全国大会に通算17回出場を果たし、2026年度にはヤマハ発動機株式会社特別賞を受賞しています。



■ 国際的工科系大学の 3つの「× (かける)」

【ART×SCIENCE】：未来を拓く夢・科学的空想・イノベーションのための飛躍につながるARTの発想と、緻密な分析に基づき、これに具体的形を与えるSCIENCEを統合させ、新価値の創造を目指す。

【LOCAL×GLOBAL】：質の高いものづくりと信用に支えられたLOCALで培われた「京都思考」に基づき、持続可能な世界的問題を解決するGLOBALな「地球思考」を併せ、新価値の創造を目指す。

【TRADITION×INNOVATION】：京都の歴史・文化TRADITIONへの深い造詣・共存と、それを基盤として磨かれた匠の技INNOVATIONを掛け合わせ、他に追従のできない信用ある新価値の創造を目指す。